

「竹を用いた仮設建築による地域活性化（鹿児島県熊毛郡屋久島町口永良部島において）」

西村智恵里

政策・メディア研究科修士1年

81125044

今年一年のスケジュール

■春学期：①夏のフルドワークに向けて設計・モックアップ ②竹についての調査

■夏期長期休暇：口永良部島においてフィールドワーク

■秋学期：①広島の保育園へこどものシェルターを届ける ②居酒屋とオフィスの設計

■春学期

春学期は、夏の渡航で仮設建築を設置するために、設計・モックアップを行った。主に、「仮設屋根」、「すだれ」、「こどものためのシェルター」、「照明」を設置することになり、私は、こどものためのシェルターを担当した。対象年齢は、小学生ということで、3,4名入れるほどの大きさである。特徴としては、以下の4つである。

- ・9つのパーツによって組み立てられる。
- ・のりや金具などの接着剤を使用しない。
- ・解体すると、スーツケースに入るほどのコンパクトな大きさになり持ち運びが容易である。
- ・現地に多く生息している竹を利用する。

この4つを満たし、デザイン的にも美しいものにするために、出発のぎりぎりまで、調整が行われた。

また、木材のカットには、ものづくり工房のレーザーカッターを使用したため、曲線や、細かいデザインのカットが可能となった。

■夏期長期休暇

8/3～8/22まで鹿児島県熊毛郡屋久島町口永良部島に滞在した。出発日は台風が直撃したため、船が出港せず、鹿児島県での滞在を余儀なくされたが、建築や街歩きを行うことができた。

8/8には、口永良部島に無事着くことができ、仮設屋根、すだれ、こどものためのシェルター、照明を設置した。これまでは、模型や、部分のモックアップをつくっていたので、等身大の建築をつくることの難しさを体験した。また、現地は湿気が多いため、神奈川で購入した合板が変形することもあった。そして、現地に多く生息している竹は、島民に許可をいただき、自分たちで伐採して、シェルターに利用した。現地の島民を招いてのパーティーも行われ、意見を

いただくことで、自分たちの設計を客観的に見ることができた。

建築のフィールドワークの他にも、長谷部葉子研究室のフィールドワークや、島のお祭りにも参加した。長谷部研究室のフィールドワークでは、島民5名に、それぞれ学生3,4名つき、島の生活を体験させてもらうのだが、私は、水道メーターの検針や、草むしり、民宿の掃除、パッションフルーツの剪定などを体験した。

お祭りには、持ち運びのできるこどものシェルターをこどもの広場に設置させていただいたのだが、ちょうど、広島から観光でいらっしやっていた保育園の先生に気に入っていただき、保育園に設置させていただくことになった。

また、フィールドワークを通して島民と触れ合うことができ、その結果、居酒屋とオフィスの2件の設計を新たにいただいた。

■秋学期

新たにこどものためのシェルターを制作し、広島へ持って行った。広島県海田町という、広島市から車で30分ほどの場所である。こどもたちは気に入ってくれて、組み立てを手伝ってくれた。できあがるとすぐにシェルターに飛び込み、その日は一日中シェルターに入っていた。当初は、小学生を対象に設計したため、保育園児には少し大きかったが、その分、いろんなアクティビティが見られた。例えば、絵本を読んだり、おままごとをしたり、昼寝をしたり、すもうをとったりである。自分が制作したものをこんなに喜んで使ってくれている姿を見て、建築をやるモチベーションが上がった。

居酒屋とオフィスは、夏にお世話になった島民お二人のための設計で、だいたいの設計は終わったので、引き続き来学期もモックアップや、詳細を決めていく予定である。

□今年を振り返って

大学院生ということもあって、建築に真正面から向き合うことができたと思う。今までは、図面と模型の中の世界であったが、今年は実施のプロジェクトを手がけることができた。この体験は、建築を仕事としていく上で、非常モチベーションになったし、自分の将来についても考える大きなきっかけになった。

建築の関わり方は様々だと思うが、私は、お施主さんの顔が見える場所で、地域に密着した設計をしたい。